

保護者様

BCG 予防接種のお知らせ

BCG 予防接種は乳幼児期の結核を予防する BCG ワクチンを接種します。

この予防接種は、接種当日に大館市に住民登録があるかたで、保護者のかたが、予防接種の効果や副反応などについて理解し接種に同意したときに限り行われます。

赤ちゃんを結核から守る

結核は結核菌の感染で起こります。わが国の結核患者はかなり減少しましたが、まだ2万人前後の患者が毎年発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。また、結核に対する抵抗力（免疫）は、お母さんからもらうことができないので、生まれたばかりの赤ちゃんもかかる心配があります。乳幼児は、結核に対する抵抗力（免疫）が弱いので全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

BCG は、髄膜炎や粟粒結核などの重症になりやすい乳幼児期の結核を防ぐ効果が確認されていますので、お子さんの体調の良い時に受けましょう。

1. 予防接種の受け方

対象者：1歳に至るまで（1歳の誕生日前日まで）

標準として生後5か月～8か月までの期間

4か月児健診と同時に接種を希望するかたは、4か月健診を受ける小児科にご相談ください。

〔長期にわたり療養が必要な疾患にかかったことなどにより定期接種の機会を逃したかたは、主治医又は健康課にご相談ください。〕

接種回数：BCG ワクチンを1回接種

接種方法：管針法（スタンプ方式で上腕の2カ所に押し付けて接種）

*他のワクチンとの同時接種は、医師が特に必要と認めた場合可能です。

*BCG ワクチン接種後、注射生ワクチン（麻しん風しん予防接種、水痘予防接種、おたふく予防接種など）を接種する場合は、27日以上の間隔をあける必要があります。

2. 予防接種を受けることができない人

熱のある人（接種場所で測定した体温が37.5 を超える場合）

重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな人

その日に受ける予防接種の接種液に含まれる成分でアナフィラキシーを起こしたことがある人

「アナフィラキシー」とは、通常接種後30分以内に起こるひどいアレルギー反応のことで、発汗、顔の腫れ、全身じんましのほか、吐き気、嘔吐、声が出にくい、息が苦しい等の症状やショック状態になるような激しい全身反応のことで、

予防接種や外傷等によるケロイドが認められる人

結核にかかったことがある人

その他、医師が不適当な状態と判断した場合

3. 予防接種を受ける際に医師と相談が必要な人

心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気や発育障害などで治療や指導を受けている人

予防接種で2日以内に発熱、発しん、じんましん等のアレルギーと思われる異常があった人

過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人

過去に免疫不全の診断がされている人及び近親者に先天性免疫不全症の人がいる人。

ワクチンには、その製造過程における培養に使う卵の成分、抗菌薬、安定剤などが入っているものがあるので、その成分に対して、アレルギーがあるとされたことがある人

家族に結核患者がいて長期に接触があった場合など、今まで結核に感染している疑いのある人

以上の病気にかかっている人、かかったことのある人は主治医からの診断書が必要なこともあります。

（裏面も必ずご覧ください）

4. 接種後の注意

BCG接種後は局所にさわったり、衣服等が触れないように注意して、日陰で乾燥させてください。10分程度で乾きます(出血があっても、拭き取ったりしないでください)

接種後30分は、接種した医療機関でお子さんの様子を見てください。

接種をした日の入浴は差し支えありませんが、接種部位をこすることはやめましょう。

接種当日は、激しい運動はさけてください。

接種後4週間は副反応の出現に注意し、接種後、接種部位の異常な反応や体調の変化があった場合は、速やかに医師の診察を受けてください。

5. ワクチンの副反応およびコッホ現象

【通常の反応】

接種後10日頃に接種局所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により抵抗力(免疫)がついた証拠です。自然に治るので、包帯をしたり、バンソウコウをはったりしないで、そのまま清潔に保ってください。ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは医師にご相談ください。

【副反応】

接種した側のわきの下のリンパ節がまれに腫れることがあります。通常、放置して様子を見てかまいませんが、ときにただれたり、大変大きく腫れたり、まれに化膿して自然にやぶれてうみが出る場合があります。このような場合は医師にご相談ください。

【コッホ現象】

BCG接種前に結核菌に感染している場合は、接種後10日以内に接種局所の発赤・腫脹及び接種局所の化膿等がみられ、通常2週間から4週間後におさまり、癒化し(あとが残り)治癒するといった反応が起こることがあります。これをコッホ現象といいます。通常の反応における接種局所の反応の発現時期(おおむね10日前後)と異なり、接種後数日間の早い段階で発現します。コッホ現象と思われる症状が見られた場合は、速やかに接種を受けた医療機関を受診してください。治療を要することがあります。この場合、お子さんに結核をうつした可能性のある家族のかたも医療機関を受診しましょう。

6. 予防接種による健康被害救済制度

- ・ 定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。
 - ・ 健康被害の程度等に応じて、医療費、医療手当、障害児養育年金、障害年金、死亡一時金、葬祭料の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。死亡一時金、葬祭料以外については、治療が終了する又は障害が治癒する期間まで支給されます。
 - ・ ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものか、別の要因(予防接種をする前あるいは後に紛れ込んだ感染症あるいは別の要因等)によるものなのかの因果関係を、予防接種・感染症医療・法律等、各分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。
 - ・ 定期予防接種の対象年齢を過ぎて接種を希望する場合、予防接種法に基づかない接種(任意接種)として取り扱われます。その接種で健康被害を受けた場合は、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法に基づく救済を受けることとなりますが、予防接種法に比べて救済の対象、額等が異なります。
- 給付申請の必要が生じた場合には、診察した医師および健康課へお問い合わせください。

ご不明な点、ご心配な点がございましたら、下記までお問い合わせください。

大館市健康課 0186-42-9055